

種類も一定して、餡物は一切與へず、菓物も、覆盆子の汁位が精々なり。食事の時間も厳に一定し居るなり。かくて、其後の發育は極めて良好にして、三島氏の健體小兒發育表の相當年齢の小兒の體量に比べても、又は外國人の發育表の夫に比べても、量目多きを見るに至りたり。皮肉な口癖の馬上おぢさんも、此頃の眞一を見てはさすがに「こらどうだ、この肥り方は」!! と歎賞し呉れるなり。されば眞一の健康の回復は全く、信じて行へる規則的の育養法にゐることとを、こゝに表述し、併せてこの結果を得たるは、全く吾が信頼せる小原國手の賜物なることを、茲に同國手に向つて深く感謝す。

(父記す)

實驗上の育兒

醫學博士 瀨川昌著

恐るべき哺乳兒脚氣

▲脚氣の毒 母親が脚氣に懸つたとき又は脚氣の徴候あるときは斷然廢乳しなければならぬ、是迄廢乳すべき病氣に就きお咄し致した中で何の病氣よりも一番哺乳兒に危険を追はし、生命に關係するのは此の脚氣で御座います、哺乳兒時代でも分けて幼稚な時代ほど脚氣の毒に胃され易いので、随分是が爲め斃れる哺乳兒は澤山あるが、就中今年は哺乳兒脚氣が多いのです、デ母親は極く輕症な脚氣で、足が少し倦とか、少し麻痺とか位で、果して脚氣になつて居るのか何うか自分にも左程心付かんで立働いて居るが、斯ういふ場合に其の兒には早くも母親の脚氣の毒が感染して恐ろしき

哺乳兒脚氣を起して居ます、不注意な母親は夫れとは知らずに、ナゼ機嫌が悪いのだらう位に思つて居ると取返の付かぬ急變を來すのです

▲手後の例 哺乳兒脚氣にかゝつたとも知らず母親は、何うも二三日機嫌が情いから醫師に診て貰はう』と哺乳兒を連れ出した其途中で遂に斃れて仕舞つたりするし又病院へ連れて往つて診察を待つて居る間に急變が來て、手當をしてもモハヤ醫師の方で生命を繋ぎとめる事の出來ぬやうな事がある、母親は左程哺乳兒が重症に陥つてるとは知らぬから今更の如く周章狼狽するがモ一追付きません、ナゼならば哺乳兒脚氣は心臓麻痺を起して斃れるのだから、手後れになつては先づ恢復の見込みなき故母親が脚氣と心付たら直に母乳を與へる事を廢め、哺乳兒は醫師の診断を仰ぐが宜い

▲哺乳兒脚氣の徵候 哺乳兒脚氣の徵候を序に説明して置かう、先づ哺乳兒が此病氣にかゝると元氣が失せて、無慾の性態即ちボンヤリして生氣がなく眼もドンヨリして仕舞ひます、夫れから顔の色も悪くなり、泣聲も涸れてヒュー泣き、乳汁を吐き出し大便は綠色になり、小便の通利は悪くなる、夫れ斗りではなく上臍は半ば垂れて半開になし、何を飲ませても咽せて充分に飲み得ないのです、斯る病狀を少しでも發見したら手後れにならぬやう、敏活に手當をする事が必要です、時日を経ると衰弱を來し、乳母を廢めたところで逆も恢復は覺束ない程の危険を醸すのです、恐るべき哺乳兒脚氣は母親の脚氣の毒に胃されるので、母親が脚氣の徵候あらば直に廢乳することを記臆致すやうに願ひたい、

母乳の検査

▲大間違ひな説 素人の方に判る母乳の鑑定法は前に述べた通り、良質の母乳か、不良質の母乳かは之によつて御判断が附ませう、ケレども世間では乳房の形状によつて不適當の乳汁だと速断したり、或は乳房の形状も悪るし、分泌も不充分だからと云つて廢乳にしたりするが、是れは大間違ひな説で決して廢乳の原因となりません、乳房の形は、少さからうが、大き過ぎやうが、平つたい胸へ押付けられたやうな乳房であらうが、夫れを以て廢乳と臆断するのは此上もなき誤解である、斯んな間違ひた考へを信じて居るのは未だ世間に多いやうだが、ドシ／＼哺乳兒に吸はせる工夫をなさい、爾うすれば前にも云つた通り一種の刺戟で乳房の形状も追々と直つて、外に故障さへなくば廢

乳どころか良い乳汁が出るやうになります

▲母乳細密の検査法無し 母乳の良否を検査する事に就いて、往々醫師に依頼する母親がある、「如何でせうか、母乳の性質は善いでせうか、又は悪いでせうか、一寸御検査を願ひたい」と云つて來るが、之れは前に申した鑑定法以外に別に大差を生ずる検査法は無いのです、詰まり母乳に大なる變化のあるならば、顯微鏡検査法及び化學的検査法でも判るが、細密なる事は一寸見た位で到底検査し得ることは今日の醫學上ではまだ出来ないのです、然るに醫師によると「宜しい、検査して上げやう」杯と如何にも手軽く検査して、善いとか悪いとか判断するが、是れは却つて醫師の不親切と云ふより外は無いのです、なぜならば細密なる性成は爾う一寸検査して判るものではないからで

す、手近いお咄しが先づ一日の内でも朝と夕とは既に性分の異つて居るやうな譯ですもの、一寸位の検査で確然と母乳の善悪を判断が出来ませうか斯ういふ醫者があつたら却つて其の説の不確なることを標榜するやうなものです。

▲安全なる鑑定 夫れ故母親の身体が健康で、乳汁も善く出て、哺乳兒の身体に異状なく完全の發育を遂げれば、夫れが申分のない乳汁です、即ち前に述べた通りの母乳の鑑定法で安全に良否を定める事が出来ます

▲検査の出来る築園 去れども母乳に大なる變化があつて異性分や、微菌や膿球杯の含まれて居るのなら顕微鏡検査で直ちに夫れを發見することも出来るし、夫れから又脂肪（即ち乳球）が充分か不充分かの事は化學的検査で見分ける事が出来る

る、併し斯んな大なる變化のある母乳なら直ぐ哺乳兒に其の症状を顯はすから、母親の注意によつて母乳の良否を發見する事が出来るのです。

代乳と養育

▲乳母の乳汁 母親が廢乳すべき病氣に罹つた場合に哺乳兒を何うして保育したら宜からうか、即ち廢乳した跡の代乳法は如何なる方法を執つたらば宜からうかと云ふに先づ第一の良法は母乳に最も類似した乳汁を得るにあるので夫れには乳母をいいて其の乳汁を與へるのです、其の次ぎには牛乳で育てる事です、牛乳に次いで牛乳を原料として製した品即ちコンデンスミルクとか牛乳粉の如きを以つて保育する方法で、此の牛乳や又は牛乳原料の製品で保育するのは之れを人工營養と云ひますが、廢乳せし場合に以上三つの保育法中執

れが適當かといふへば申す迄もなく善良なる乳母の乳汁に限るのです。

▲死亡の多き時代 併し適當なる乳母を捜すのは随分困難な故、乳母を置かぬとすれば是非人工營養法なる牛乳か或は牛乳製品で養育しなければならぬのです、西洋でも乳母の乳汁でなければ其の代りに人工營養法を以て養育されて居るが之は何うしても人乳の養育には及ばないのみならず健康なる發育を遂げしめるには種々の困難が生じて死亡の比例から見ても必ず牛乳や或は牛乳製品をもつて育てた哺乳兒に故障が多いのであります。一体現在の人の最とも多く死亡する數は初生第一年迄の間、即ち一年未滿の哺乳兒時代に多いのです、ソコで其の死亡する病氣は何が一番多いかと云ふに大部分は胃腸の疾患、夫れに次いで傳染病

であります

▲恐るべき哺乳兒の胃腸病 胃腸の病氣は大人には多く有勝ちの病氣で、左程大人は恐ろしくも感じないから、哺乳兒の胃腸病も自然此様習慣から爾う重く思はない親があるが、之は飛んだ心得違ひです、哺乳兒の胃腸病は大人と趣きが違ひますから、決して輕々しく思つてはなりません、デ哺乳兒に胃腸病の多きは全く營養の不完全なるので營養其宜しきを得ぬからであります、斯く營養不完全に陥り胃腸病に胃されし愛兒の斃れる其原因は何にあるかと云へば、實に人工營養法をもつて保育された哺乳兒に多いのであります、牛乳をもつて保育する場合や、牛乳製品をもつて母乳に代用する時は大に此の點に注意し、牛乳とか牛乳原料の製品を飲まして置けば故障なく育つこと、

考へて居ると遂には營養を害するに至り、取返し
の付かぬ危険に陥ります、故に歐羅巴にても追々
人工營養の方法を改善し講究して居るけれど、未
だナカク之れが多いのです、歐羅巴に比較して
日本では胃腸病の哺乳兒が多いか少ないか次に
話し致しませう。

人工營養と死亡

▲近頃乳汁の誤解多し 世間には乳汁の問題に對
し大分誤解をなし居る者がある、出産の當時母乳
の分泌が悪いからと云つて、分泌させる方法も講
ぜず、「逆も乳母は不足だから牛乳でも育てませ
うと、抛つて仕舞ふのみならず母乳と牛乳とは哺
乳兒の營養上全く同等と認めて居るか、左もな
くば牛乳の方が母乳以上と心得て居る人もあるや
うだ、折角出べき母乳をもつて居ながら开きな誤

解をして居る方があるのには困ります、何うか斯
んな心得違ひのないやうにしたい、扱歐羅巴に於
ける一年未滿の哺乳兒が死亡する其の統計を茲に
お咄しいたさう、之れは百人に對する割合を示し
たのです

索遜	二六、二	埃太利	二二、九
普魯西	一九、八	以太利	一六、七
英吉利	一五、七	佛蘭西	一五、六
丁抹	一二、八	愛爾蘭	一〇、六
諾威	九、五		

先づ統計上斯ういふ比例を得たので是れは最近の
調査にかゝるものであります

▲外國に於ける引證 此の比例を見ましても何う
して諾威は死亡數が尠ないか又索遜は何故斯く死
亡數が多いのであらうかと云ふ疑問が起るであり

ませう、此點が即ちお咄し致して置く必要の眼目でありませう、元來諸威と云ふ國は牛乳とか又牛乳を原料にした製品をもつて保育する事は土地の習慣上尠ないのでありませう詰り人工營養を用ゐぬ國で母乳を以て多く養育致します殊に牛乳は最上等の品に富んで居て、不良の品は極く尠ないので、テあるから哺乳兒の胃腸病に胃される事が尠ない、然るに索遜は多く人工營養法をもつて養育するから、其の結果は統計の上に顯はれ百に對する死亡兒が那のやうに澤山あるではありませうか

▲我國の習慣 歐羅巴に於ける一歳未満の小兒が死亡する統計は能くお解りになつたでせう、然らば我が日本では之れに比べて何う云ふ統計を示して居やうかと云ふに

百に對する一四、三

である、シテ見ると歐羅巴諸國の統計と比較して佛蘭西と丁抹との間に位して居るので、一般の成績上から見ても善良なる結果を顯はして居るので、言換へれば日本では牛乳や牛乳製品を用ゐる事が尠なく、母乳をもつて養育する美しき習慣の存する故、従つて之れが哺乳兒の胃腸病を起さぬ原因となるので歐羅巴に比較すると、育兒上母乳の點は非難の聲が低いのであります。

◎水の効能 腎臟病の原因は水を飲むのが足らぬからで、婦人は殊にさうだと云ふ△朝夕水を茶碗に一抔づゝ飲むと、日中心が爽かで、さうして大便の通じが好い△然し、食事の前後には成るべく飲まぬ方がよろしい、それは消化機能を妨げるからだ△それで食前三分ほど前に、水道の水か井水の良いのを一盃づゝ行ると顔の色好くなるし、第一身體を丈夫にする△下手な茶よりは水の方を飲むやうにせよ、と某醫士の談